



園だより

令和5年1月10日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育1月のねらい」

わげんあいご
和顔愛語

「笑顔のスタートを」

園長 佐藤 和順

卯年を迎えました。新年明けましておめでとうございます。旧年中は、幼稚園の運営に関しましてご理解、ご協力をいただきありがとうございました。コロナ禍の収束には、今しばらく時間がかかりそうですが、今年も子どもの人格形成の基盤、心や身体の根っこを育てるべく、教職員一同力を合わせ、がんばって参りたいと思います。どうぞ、一年間よろしく願いいたします。

今月の保育の目標は「和顔愛語（わげんあいご）寒さに負けず仲良く遊ぼう」です。「和顔」とは、心と顔の両方が常に優しい気持ちでいること。「愛語」とは、周りの人を思い、優しさを持って話すということです。つらい時、悲しい時、くじけてずっと情けない顔をしてはいけません。どんなときでも笑顔を忘れず、仲良くしていきましょうということを園児には伝えていきたいと思ひます。

この「和顔愛語」は、私の座右の銘でもあります。何かメッセージを請われた時には「和顔愛語」と書きまひすし、大学の授業で教育実習を終えた学生にもこの言葉を贈っています。

「目は口ほどにものをいう」という言葉があります。相手の目や表情を見れば、喜んでいるのか、悲しいのかなどなんとなくわかることがあります。常に笑顔でいることができれば問題はありませんが、うまくいかないことが多いのが現実です。つらい時こそ少しがんばって笑顔を作ること逆境から抜け出すよい方法かもしれません。「笑う門には福来る」ともいひます。笑顔に誘われて心も明るくなることでしょう。

また、言葉の力はとても大きく、使い方次第で気持ちが楽になることもあれば、誰かを傷つけてしまうこともあります。優しい言葉を聞けば気持ちや心が穏やかになり、逆に批難や悪口を聞けば嫌な気持ちになります。また、言葉はすべて自分に返ってくるとも言われています。人に優しい言葉をかけることができる人は、人からも優しい言葉をかけられるでしょうし、常に人の批判や悪口を言っている人には、口から出ている醜い刃はやがて自分自身に返ってくるでしょう。

新しい一年がスタートする1月。

日頃、どのように子どもや周りの人に接しているのか、振り返ってみる良い機会です。

「和顔愛語」で笑顔に満ちた一年であることを願ひたいものです。・

